

# 第 141 回 和田サロン

2014 後期 第 9 回

12月1日(月) 16:10～

今回はゲストをお招きしての特別サロン。

お話し下さるのは、大阪学院大学名誉教授の

中川 徹 先生です。

## 創造的な問題解決の一般的方法 「6箱方式」

技術、社会、身の回りなどのいろいろなことで、私たちは困難な問題に直面し、その壁を破る何か新しい解決策が必要になる。従来、壁を破るには、「ひらめき」が必要と考えられ、そのためにさまざまな「アイデア発想法」が考案されてきた。それらは、「できるだけ近道をしてアイデアを得る」ことをねらい、科学の基本の「抽象化の4箱方式」を、「分野ごとに作った多数のモデル(理論)のどれかに簡便にあてはめて、その答えをヒントとして使う(類比思考)」ことに陥っていた。— 創造的な問題解決の方法自身を、もっと全体的・体系的に考えて、最近、「6箱方式」という一般的方法を作り上げた。旧ソ連の民間で開発された TRIZ(トリーズ、1946～)技法と、それに刺激を受けて米国で開発された USIT(ユーシット、1995～)とをベースにして、日本で開発したものである。「群盲象をなでる」状態に、「象の全体像を示した」と考えている。

サロンでは、つぎのテーマで問題解決を演習し、「6箱方式」で整理・説明します。

[予習的課題] 「裁縫の最後で、気がついたら残りの糸が短すぎて、標準的なやり方(玉止め)で糸を結べない。このようなときに、糸を結ぶ方法を考えよ。」



東京大学理学部化学科(森野研究室)卒業。理学博士。  
東京大学にて、分子分光学の研究。  
富士通にて、ソフトウェア工学の研究、研究支援業務。  
1998年大阪学院大学情報学部教授、TRIZの研究。  
同年『TRIZ ホームページ』を創設し、編集者。  
2012年以降、大阪学院大学名誉教授として、TRIZ/  
USIT/CrePSの研究・普及活動が続ける。